

## 令和4年度 第1回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和4年8月2日（火）午前10時から

場所 市役所3階 南北会議室

出席委員 13名

欠席委員 1名

事務局 9名

### 1 開会挨拶

#### 【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

コロナが収まる気配が見えない中、昨今の原油高、円安等に伴う物価高で、中小企業、市民生活は厳しい状況にある。

この会議では、これまで委員からの様々な意見をもとに、中小企業サポートセンター（コネクト22）の開設やコロナ関連に対する総合相談窓口の設置、今年11月には、創業支援拠点として防府市創業・交流センターを開設するところである。

本日は、コロナ禍の中、物価高騰等の様々な問題があるが、中小企業への支援について、忌憚のない意見をお伺いするとともに、次期中小企業振興基本計画の骨子案をお示しするので、併せて御意見を賜りたい。

これからの中小企業の振興のために、様々な御意見、御尽力、御協力をお願い申し上げる。

#### 【事務局】

##### ○ 会議成立の報告

14名の委員中、13名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

##### ○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

#### 【会長】

コロナ禍が常態となった時、中小企業の振興をどうするのか、エネルギー、物価の問題等にどう対応していくのかを考える中で、デジタルトランスフォーメーション(以下「DX」という。)など時代に合った事業形態に変えていくことも必要である。

また、SDGs、カーボンニュートラルの取組は避けられない。大手企業は中小企業等のしっかりとしたサポートがある場所を選ぶ。そのため、カーボンニュートラルを積極的に推進していき、防府市の経済基盤を強化すると同時に、イノベーション等による構造的変革も行えるなど、防府市の中小企業の競争力を高めていくことも必要である。

中小企業振興策を考えていくうえで、忌憚のない御意見を願います。

## 2 防府市中小企業振興会議について

### 【事務局】

～ 防府市中小企業振興会議について概要説明 資料1 ～

## 3 令和3年度中小企業振興施策の実施状況及び令和3年度防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の受注状況について

### 【事務局】

～ 令和3年度中小企業振興施策の実施状況及び  
令和3年度防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の受注状況について  
資料を基に説明 資料2-1、2-2 ～

### 【会長】

令和2年度事業について、委員の皆様の意見をいただきたい。

### 【A委員】

創業希望者が多く、コネク22を中心に、創業塾等を展開した。コロナの影響を受けて、新たな事業展開をしたいという第2創業という形で申込みも非常に多かった。創業塾は、令和4年度も開催することとしている。

創業は、まちの活性化にも繋がり、雇用の創出にも繋がるので、今後も展開していきたいと考える。

ルルサス防府2階の総合相談窓口の開設により、多くの相談があった。また、コロナ禍の中で、DXの相談などにも発展してきており、こうした施策を展開できたことに感謝する。

DXのこれからの展開については、売りたい商品、売れる商品をしっかりと検討し、効率的に販売をすることが大事であり、コネク22を中心として関係団体等と連携して進めていきたい。

### 【B委員】

DXやデジタル化について、自社ではデジタルに詳しい者を採用した。外部から新しく入ってくると、色々な問題点も浮かび上がり、新たな視点でのデジタル化に取り組むことができた。

デジタル化を進めるには、知識を持った人材が必要であり、会社の人材募集にどう繋げていくかを考える必要がある。

また、工場を新しく増設しているが、申請するには多くの書類を揃え、許可を得るまで半年を要し不便であった。書類が少なくなれば役所でも業務の効率化になるのではないかと。また、納税証明などは窓口に行かなければ行けないので、窓口に行かなくてもいい方法を考えていただきたい。

許可までのスピードを上げて頂きたい理由の1つには、物価高の影響で、資材等が大幅に値上がりしている背景もある。DX化によって、出来るだけ足を運ばせない、省略できる提出書類等の見直しを検討して頂きたい。

#### 【会長】

DX化に取り組むためには、企業で専任者をつけるであるとか、DXに詳しい人材をとり入れるなど、まずは知識を導入してからでないといけないのではないか。ただ単にどの機械をいれるとかではなくて、先ずは組織体制や人材のところからスタートである。

また、工場の増設については、提出書類も多いので、市側もDX化をするときには、窓口の集約などをすることを検討して頂きたい。

#### 【C委員】

防府市は、オンライン使える施設が少ないので、改善して頂きたい。

コロナ対応で、補助金等を出されたと思うが、対象業種は良かったのか、その検証をしていただきたい。

中小企業のDX化については、発想の勝負になってくると思うので、DX化によってこういうことが出来たなどの事例を紹介していただきたい。

#### 【会長】

全ての小売業の経営が苦しくなった訳ではなく、ネット販売業者は売り上げが大幅に伸びた。業態の変革の兼ね合いがあったと思うが、成功事例の共有が多ければ、申請がもっと多かったのではないかと。コロナ禍が収まったとしても販路の開拓が新しくでき、しかもネットであるとそれほどコストもかからないので、後のことを考えると競争力も上がってくると思うので、事例の共有などでより効果を広めていくことに予算が使われていくことも重要である。

#### 【D委員】

人材の育成が難しい。当社では、ハローワーク等による求人募集により経験者を採用している。人手不足から他業種から採用したことがあるが、この業種の常識を知らないことからトラブルもあり、一から人材を育てることの難しさを痛感した。

#### 【事務局】

技術の習得等については、従業員の技術力の向上を図る取組みに対し助成する事業もあるので、是非活用して従業員のスキルアップに繋げていただきたい。

#### 【E委員】

人手不足については、コロナ禍に関わらず人手不足である業種とコロナの影響により国等の助成事業を活用しても人手不足である業種の2パターンがある。

令和3年度は昨年度より2割増しの募集があり、早く従業員を確保しなければ事業が立ち

行かないという切実な声も聞く。

ハローワークの人材募集も、インターネット等で募集を出している職業紹介事業者や人材派遣会社のように広く公開するように変わってきている。

ハローワークに来なくても、求人等が閲覧できる登録システムを採用し、2割くらいの方が在職中の方で求人募集を見るために登録している。そういう意味では、ハローワークも転換期にきていると思う。

また、人材育成については、就職する段階よりもっと早い段階から常識等を教えることも必要。

#### 【会長】

運送業は、2種免許を取っていれば、職が見つかる。企業の特殊な競争力の源泉となるようなところを従業員に託していない。そうすると、外で一般的な力を持った人を採用した方が良いとなる。教育投資をしても、免許を持っている人などが他の所に行くとならぬと他の会社が活用してしまう状況が生じてしまう。

これに対し、ドライバーに付加価値を付けていくなど業態変換することや技術を身に付けても他社に行かないというようなモデルを導入していくことが必要である。

#### 【F委員】

人財活躍応援事業の規模と参加者数は。

#### 【事務局】

オンライン化を実施したことのない事業者を対象にした「ほうふしごと応援事業」については33名、子育てなどで職を離れている方等を対象とした「女性のキャリア形成支援事業」が7名である。

#### 【会長】

総括すると、DXに関して言うと、単なるコンピューターを買うレベルではなく、新たな知識を入れて、企業が本気になってやっていかなければうまくいかない。DX化を具体的に進めていくことを意図した施策が今後必要になってくる。

人手不足から、内部育成をしていくことも必要になってくる。その時に研鑽などをどうしていくか分からないという意見もあった。人手不足に対して人材マネジメントをどうしていくのか、セミナーのような形で教育していく。いろいろな知識を教育していくということが重要ではないか。

事例の共有、結果のフィードバックを情報として出すべきだ。という意見があった。

#### 【A委員】

プレミアム付き商品券事業については、商工会議所で換金等の窓口をした。

経済団体として、コロナ禍に対して消費を落とさないことが非常に大きな目標で、それぞれの感染拡大のタイミングでプレミアム付き商品券を発行して、大きな効果があった。コロ

ナのピークが来て、その後商品券となると気分的に落ち込む形があるので、商品券の販売がちょうどいいタイミングで発行できた。

事業所にヒアリングを行っているが、ある文房具店に話を聞くと、商品券を発行した時期の売り上げが1割から2割アップしており、客単価で計算すると、2割近くアップしている。自転車店では、自転車本体だけでなく、商品券でヘルメットを買ったり、鍵を買ったり、カップを買ったりという形で、派生効果が発生している。

防府市の場合、紙ベース(の商品券)でいこうと、電子商品券というのは、1000円でいうと980円のものを購入したら20円が繰り越されてしまう。紙ベースでいくと、980円だったらもうちょっと買って超えていこうという形になり、全体的に客単価で上がるので、消費が落ちない。

共通券と専用券と分けさせていただいて、中小規模対策という形で、色を赤と青とした。青色は人間を割と冷静にさせる。冷静にさせた券を専用券と書かれると早く使わなければならないという行動に移るといった効果もあったのではないかと思っている。

専用券は中小・小規模店で使用できるので、コロナで一番困っている中小・小規模店で利用していただく。換金を見ている、専用券が一番早かったことから、コロナで困っている事業者に対して対策ができており、共通券と専用券を分けた効果が非常に出ている。

また、適切なタイミングでプレミアム率を2割で続けたことでリズム感が出ており、今後は、受益者負担等も含めて、色々な形でしっかりとした制度、防府市産の地場産を売っていかうとする定期的な制度、地産地消的な制度等を作っていこうとすることが良いかと思う。子育て応援クーポンも皆さん喜ばれた。

子育て世代は、非常にお金がかかるので、タイミング良くクーポン券を出したことで、入学シーズンに向けて、学生服、ランドセル、眼鏡、文房具そういった業者にすごく使われた。

家族との食事にも使われ、非常に効果的であったなど、皆さんからそういったご意見を頂いた。

#### 【G委員】

飲食店にプレミアム商品券と子育て応援クーポンで、家族連れで来店され、効果は絶大であった。ちょうどコロナが収まり、お客さんが動き出した時期だったので、とても助かった。引き続き、クーポン券等の発行をお願いする。

## 4 防府市中小企業振興基本計画の変更案について

### 【事務局 本間課長】

～令和4年度 防府市中小企業振興基本計画の変更スケジュールについて説明～

#### 【H委員】

様々な支援等が充実していると思うが、それを企業に浸透させていくためにもコネク22を利用していただくことが重要となってくる。金融機関としても、コネク22と一緒にいろいろなことに取り組んでいる。デジタル化についても、インボイス、電子帳票保存でやむなくデジタル化を進めていかなければならない。これらの相談内容もコロナの中で、だん

だん増えていっているのです、コネク22の存在が大きくなっていく。

#### 【I 委員】

企業のデジタル化、DX化について、中小企業者も興味を持たれているがソフト、ハードを提供する業者はいるが、そこでいつも言われるのがそれを使える人がいない。物が入ったけれども、20%しか機能を使いこなせていないということで、次の提案をしてもなかなか乗ってこない状況である。

デジタル人材を育成することやコンサルティングを行うというのは非常に良いと思う。デジタル化を推進していくことで、カーボンニュートラルの推進や、ペーパーレス等の環境問題の解決、デジタル化によって業務が効率化による人手不足が解消にも繋がると思うので、力を入れてほしい。

#### 【J 委員】

デジタル化の推進について、県が電子決裁をすすめており、県に提出する書類は電子データのやりとりとなってきた。組合に対しても、デジタルによる提出を可能としているが、中小企業、零細企業については、デジタル化がかなり遅れているので、この際に色々な提出についてもデジタル化の推進として、中小企業の育成と合せて取り組んでいる。

防府市も自らデジタル化の取組を示していただいて、それに中小企業がついていくような形にして頂きたい。

#### 【K 委員】

創業の支援について、若者がまちを良くするとも言われているので、若者が創業しやすいまちづくり、定着しやすいまちづくりを進めてほしい。

また、フリーWi-Fiのスポットまど、まちを活性化する仕組みづくりができればと思う。引き続き、中小企業が残れる支援を行って頂きたい。

#### 【L 委員】

創業支援施設について、防府市独自のコンセプト、市外からも人が呼べるような特徴ある施設を整備して欲しい。

Wi-Fi環境についても、ルルサス1階の文化センターでWi-Fiが繋がる場所が出来た。現役の市議会議員が防府市内全域をWi-Fiで繋がる環境にしたいという公約を掲げた方もいた。

外からきて、どこでも誰でも仕事ができる。外から入ることによって、結果的に空き家対策など、色々なものに繋げていける仕組みを市全体で作っていただけたいと思う。

#### 【会長】

カーボンニュートラルの施策は、大きいものから小さいものまでである。

大きいところでいうと、防府市は工場、運送業が多いことを考えると、例えば、水素を推進していく。今回のカーボンニュートラルの動きに関して、昔の1970年の頃、マスキー

法が出来たころには、経営者は行政が何を言おうが、先んじて先にやるぞと奮起し、ホンダは CVCC エンジンを開発して、それが世界の基準になっていったが、なかなかそういう企業は出てきていない。水素の場合は、コストの問題や規模の経済をどのように効かせていくのか、効率的な生産をどうしていくのかということはあるが、それほど難しい問題ではないと思う。市としてどのように推進していくのか。大手企業や中小企業のところにエネルギーを大量に使うところとどのようにネットワークを組んで進めていくのかは一つあると思う。

小さいところというと、中小企業も含めて効率化の活動、特にエネルギーのところ合せて、何%減らせたということで、例えば、TQC（全体的品質管理）の活動というようなもので評価をしていくと、エネルギーをどのくらい削減し、カーボンニュートラルに近づいていたところを表彰することもあると思う。

例えば、自らが動かなくても、森林や海に海藻を投入するなど。それらにいくらか投資していくことによって、実質、二酸化炭素をこれだけ吸収したというようなことを行うなど、様々な方法があると思う。世界中のさまざまな動きを見て施策の中に組み込んで進めていくこともあると思う。

DX とカーボンニュートラルは 効率化というところでは、ほぼニアイコールになっていくことも多々あるので、企業にとってプラスだということで進めていって欲しい。

DX でいうと、例えば、インボイス制度を契機に、最も効率的にデジタル化していくかを検討していくこともよい。それに対して、行政がインセンティブを与えていく方法も必要ではないかと考える。

若者への創業支援がまちを変えていくとの意見については、今後、コロナの対処の仕方が慣れてくるので、打って出ていくということも必要である。

その中で、市全体の考え方の中で、Wi-Fi を整備していくとか、特徴あるビジネス環境を用意することにより市外から若い人材を呼び込んでいく。そして、商工会議所等と様々なところと連携して、創業に繋げていくことが必要ではないかという意見をいただいた。

## 【B委員】

他市のインターチェンジの近くに通常は物流拠点ができるが、防府市に進出しようと思っても調整区域であるため出来ないということが起こっているのではないかと。物流コストがあがっているなかで、単にコンテナ船が足りないということもあるが、市全体の活性化のなかで、防府地域を港側ばかりではなくて、都市計画区域の見直しが必要であると思っている。5年、10年かけても規制を見直し、市全体の活性化につなげて頂きたい。

## 【市長】

～閉会 挨拶～

本日は貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

昨日、国の概算予算が示されたところであり、市ではこれから各部局とサマーレビューをし、来年の事業について、今日頂いた意見をしっかりと踏まえて行っていきたい。

中小企業の総合相談窓口については、コロナ終息後も必要と認識しているので、今後、商工会議所と一緒にやっていきたい。

B委員から、手続きが遅かったことについては、私は県の企業立地の担当もしていたので、その時の経験を踏まえて、どのようにしたらいいのか、システム的に何か出来ないかということを検討していきたい。

C委員から、施策をしっかりと検証していただきたいと意見を頂いたので、しっかりと検証して、事例集等を作ってPRしたい。プレミアム商品券についても様々な意見を頂き、今後の取組について、商工会議所と検討していきたい。

人材育成についても様々な意見をいただいた。しっかりと対応できるものは対応していきたい。

デジタル化、カーボンニュートラルの課題について、様々な意見を伺い、新しい計画の中でしっかりと位置付けて、来年度予算に向けて、しっかりと取組んでいきたい。

若者が創業しやすいまちづくりについても、これから若い人たちが防府を支えていってもらわなければ困るので、しっかりと対応していきたい。

水素についても、究極のクリーンエネルギーだと思うので、長期的にも出来ないかということも検討してまいりたい。

委員の皆さんから様々な御意見をいただいたので、中小企業の振興になるように、10月にはある程度それを踏まえた形で提案できるようにしていきたい。

#### 【事務局】

以上で、令和4年度第1回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午前11時50分